

中濃農林事務所の普及活動状況 令和6年12月31日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■いちご 新規就農者への支援

12月18日、いちごの新規就農者の巡回を行い、栽培状況の確認と今後の作業について助言した。今年度も育苗期間中に高温が続いたため、苗の花芽分化が遅れ、12月上旬からの出荷を予定していたが、少し遅れた12月16日からの出荷となった。

いちごの出荷は年明けごろに最初のピークがあり、更に3月以降は収穫作業が追いつかなくなるほどの忙しさが予想される。

農業普及課では、作業の遅れによる出荷量の減少を防ぐため、必要な病害虫対策や効率よく作業を進めるための手法が実践できるよう、話し合いを通して本人が納得できるよう整理して伝えている。

(地域支援係)



【生育状況を確認】

■ぎふ清流GAP評価制度 更新に向けた見直し実施

12月12日、関市内の土地利用型経営体を対象に、GAP手法を用いた営農体制の見直しを行った。

今回見直しを行った経営体は、令和4年度にぎふ清流GAPの認証を受けており、来年度更新を迎えることから、新制度での変更点を中心に確認を行った。新たな項目を確認していく中で、今までとは別の視点でのリスク評価を行ったことで、GAPの重要性を再認識している様子であった。

農業普及課では、来年度の更新審査に向けて、引き続き、自己点検やその後の改善に向けての支援を実施していく。

(地域支援係)



【リスク評価の確認】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■円空さといも 高品質なさといも生産を目指して

12月6日、円空さといも生産組合役員会が開催され、近年低下している丸いも率向上に向けた検討会が実施された。

役員会では、夏季の高温・干ばつの影響下でも、収量・品質の安定化を図る栽培を行うとともに、種いもの更新も検討すべきであるとの意見が出され、種いもの候補となる株の選定が行われた。今後、茎頂培養が行われ、数年後には今回選定された株から増殖させた種いものが組合員に配布される予定となっている。

種いもの更新に向けた検討と合わせて、農業普及課ではJAめぐみとの連携し、収量・品質を向上させるための栽培試験を実施しており、11～12月に収量調査を実施した。今年度の結果をもとに、2月には栽培研修会を実施する。

(地域支援係)



【種いも候補の選定】

■夏秋なす 夏秋茄子生産出荷組合役員会

12月11日に、中濃営農経済センターにて、第2回夏秋茄子生産出荷組合役員会が開催され、JAめぐみの担当者と5名の役員が出席した。

役員会では、次年度の苗、資材等の購入について検討された。農業普及課からは、今年度の出荷実績となすの高温対策についての情報提供を行った。役員は、気象と出荷量の関係について関心を深めていた。

農業普及課では、1月に次期栽培計画に繋げるための個別面談を行うなど、今後も生産出荷組合を継続的に支援していく。

(地域支援係)



【役員会の様子】